



令和7年度

徳島県小学校教育課程研究集会

— 体 育 —



内容

1 部会Ⅰ（説明等）

- ・令和7年度小学校各教科等担当指導主事連絡・研究協議会の内容伝達

2 部会Ⅱ（協議・説明等）

- 【協議】・事前課題で作成した「指導と評価の計画」をもとに

- 【説明】・評価について

- ・低学年の授業づくりについて



現行の学習指導要領が目指していること

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化



高校の新科目「公共」の新設



各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善



新しい時代に求められる資質・能力の育成を図るための学習過程の質的改善



初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について （令和6年12月25日中央教育審議会諮問）【概要】

子供たちを取り巻くこれらの社会の状況

- 不確実性の高まり（少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等）
→子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換
→自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘
→多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す
→生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠

現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている
→我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

顕在化している課題

①主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- ・ 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- ・ 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- ・ これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- ・ 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- ・ 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③デジタル学習基盤の効果的な活用

- ・ デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- ・ 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- ・ 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(※) GIGA スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

- 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい
→これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要
- 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性
→令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

※別途諮問している「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」に係る検討と連携



- ① 学ぶ意義を見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっている
- ② 現行学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば
- ③ GIGAスクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤の効果的な活用は緒に就いたばかり



顕在化している課題

①主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- 学が意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③デジタル学習基盤の効果的な活用

- デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

系統性を踏まえた指導

主体的に学習に取り組む態度の評価

深い学びを実現する効果的なICTの活用



小学校から高等学校までの12年間の系統性、
発達の段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化

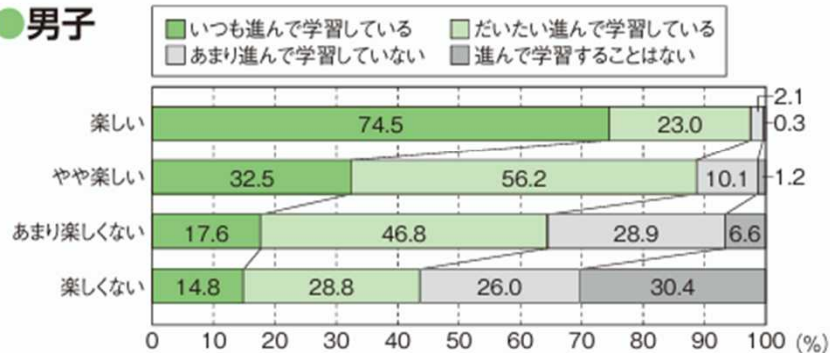
各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期	
小1・2年生	小3・4年生	小5・6年生	中1・2年生	中3年生・入学年次	次の年次・それ以降
体づくりの運動遊び	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動
器械・器具を 使ったの運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技
水遊び	水泳運動	水泳運動	水泳	水泳	水泳
表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技
			武道	武道	武道
			体 育 理 論	体 育 理 論	体 育 理 論
	保健	保健	保 健	保 健	保 健

☐ は選択

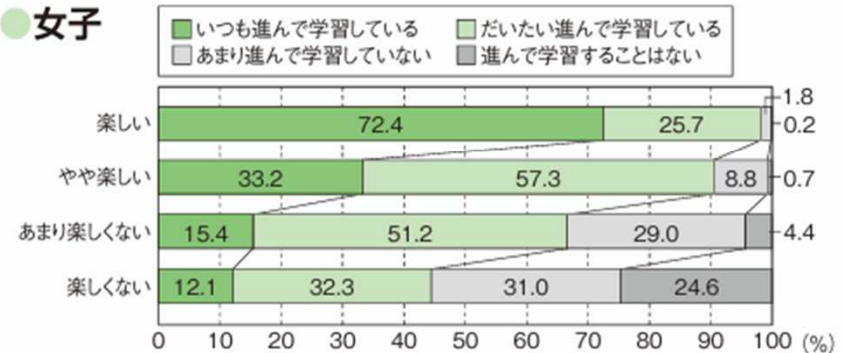


質問9 「体育の授業は楽しい」 × 質問11 「体育の授業では、進んで学習に参加している」

● 男子



● 女子



令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書 p.66

体育科改訂の要点(抜粋)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する観点から、発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で育成することを目指す具体的な内容の**系統性を踏まえた指導内容の一層の充実**を図ること。

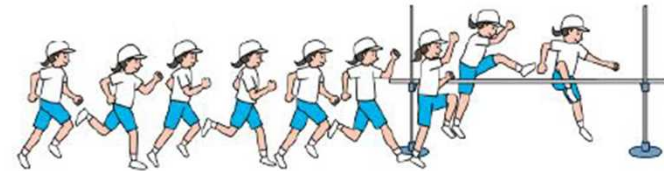
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編p.8

- ・運動が苦手な児童が、どうしたら進んで学習するようになるのだろうか？
- ・進んで学習する子供の具体的な姿について悩むことがある。
- ・主体的な学びに向かうことができるようにするための体育科の授業づくりのポイントは何だろう？





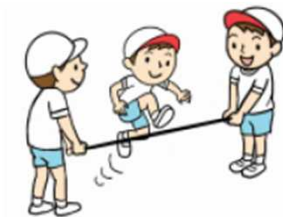
走り高跳びの系統性



走り高跳び
(第5学年及び第6学年)



高跳び
(第3学年及び第4学年)



跳の運動遊び
(第1学年及び第2学年)



「跳の運動遊び」「高跳び」「走り高跳び」

三つの柱をバランスよく育む

知識及び技能

第1年生及び第2学年	第3年生及び第4学年	第5年生及び第6学年
次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。	次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。	次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。
跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。	高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。	走り高跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。

思考力、判断力、表現力等

第1年生及び第2学年	第3年生及び第4学年	第5年生及び第6学年
走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	自己の能力に適した課題を見付け、動きを見に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

学びに向かう力、人間性等

第1年生及び第2学年	第3年生及び第4学年	第5年生及び第6学年
運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすること。	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

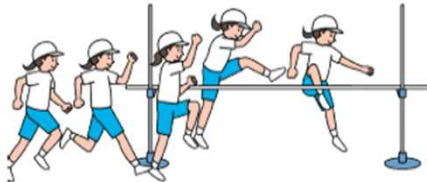
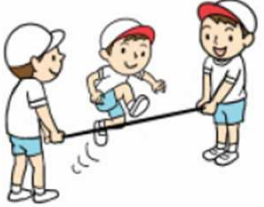


知識及び技能

に目を向けてみると…

走り高跳びの系統性



高学年	 走り高跳び	リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと
中学年	 高跳び	短い助走から、踏み切って跳ぶこと
低学年	 跳の運動遊び	前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること



第1年生及び第2学年	第3年生及び第4学年	第5年生及び第6学年
前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること	短い助走から踏み切って跳ぶこと	リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと

教科の目標（抜粋）

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

特性に応じた課題や解決方法に関する知識及び技能を、状況に応じて既存の知識と関連付けることで、様々な場面で活用できる概念としていくことや、**習熟した技能として身に付けることが必要**であることを示している。



第5学年及び 第6学年	走り高跳び リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと	走り幅跳び リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと
----------------	------------------------------	------------------------------

技能についても同様に、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが重要である。

例えば、走り幅跳びにおける走る・跳ぶ・着地するなど種目特有の基本的な技能は、それらを段階的に習得してつなげるようにするのみならず、類似の動きへの変換や他種目の動きにつなげることができるような気付きを促すことにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの中で主体的に活用できる習熟した技能として習得されることになる。



学びに向かう力、人間性等

に目を向けてみると・・・

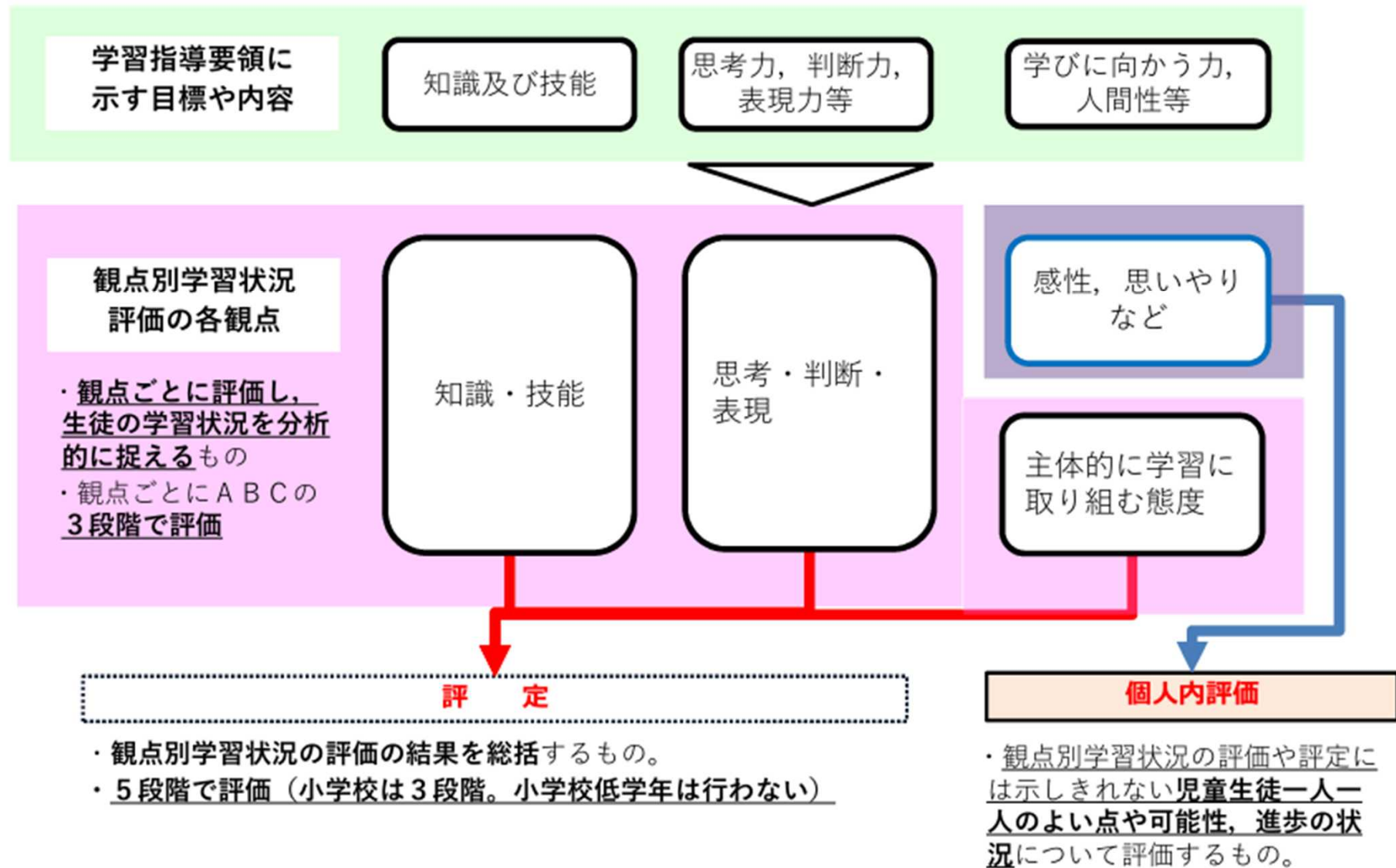
第1年生及び第2学年	第3年生及び第4学年	第5年生及び第6学年
運動遊びに進んで取り組み、 順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 場の安全に気を付けたりすること。	運動に進んで取り組み、 きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 友達の考えを認めたり、 場や用具の安全に気を付けたりすること。	運動に積極的に取り組み、 約束を守り助け合って運動をしたり、 勝敗を受け入れたり、 仲間の考えや取組を認めたり、 場や用具の安全に気を配ったりすること。

目標〔第5学年及び第6学年〕

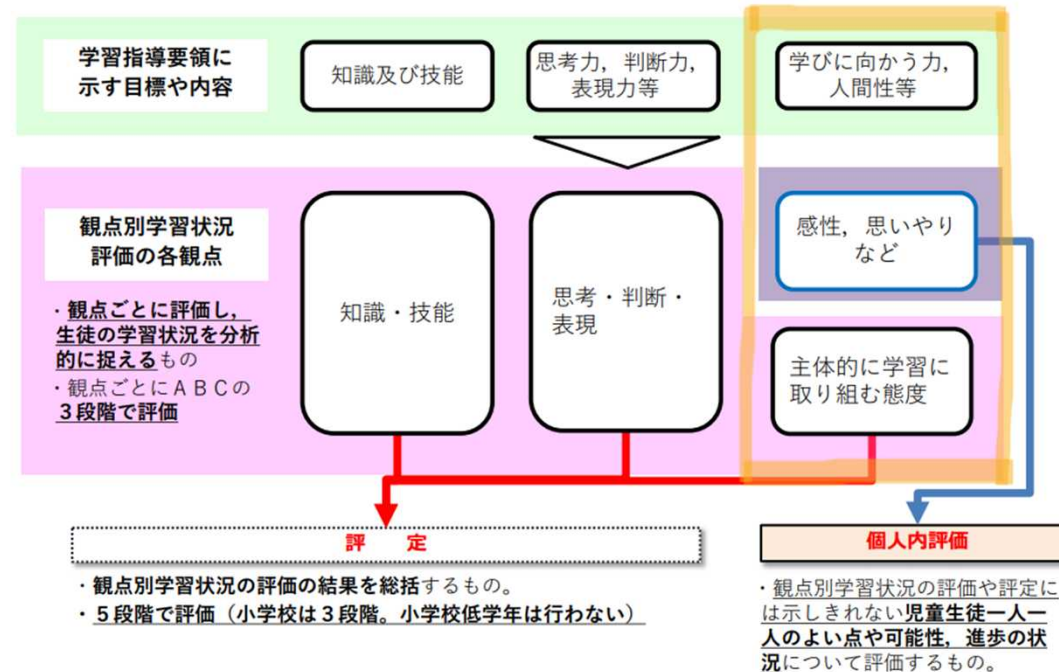
(3) は、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標であり、運動やスポーツの価値である、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動をする態度を養うことを意図している。



学びに向かう力、人間性等を 涵養すること



評価の対象に特性があることに留意



各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。例えば、**体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。**

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編体育）p.11



第5学年及び第6学年 ボール運動

(3) 学びに向かう力、人間性等

(3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。



体育科(運動領域)では、
「学びに向かう力、人間性等(公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全)を涵養したり」が入る。

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとしている側面と、

② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整**しようとする側面、

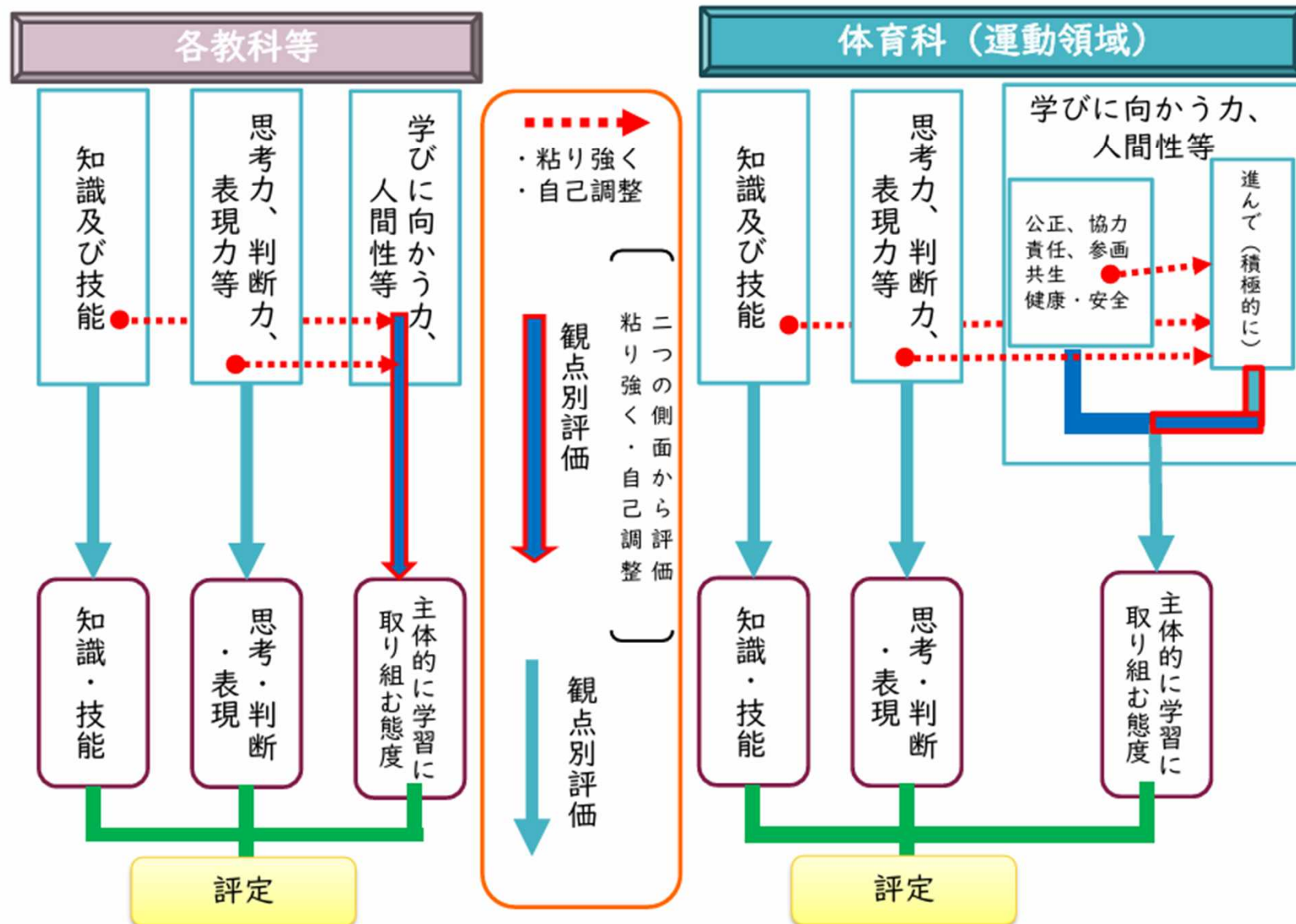
という二つの側面を評価することが求められる。

主体的に学習に取り組む態度の評価



主体的に学習に取り組む態度の評価

体育科（運動領域）における主体的に学習に取り組む態度〔観点別学習状況の評価に係る部分〕

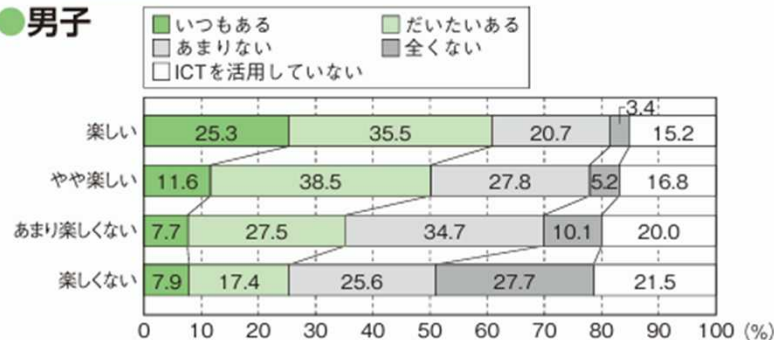




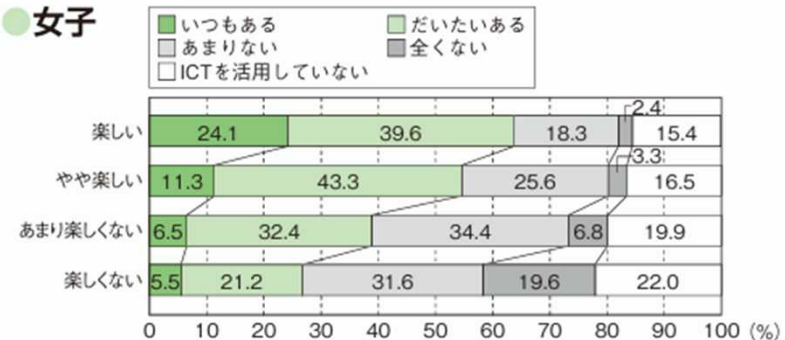
質問9 「体育の授業は楽しい」

× 質問14 「体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったり』することがある」

● 男子



● 女子



令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書 p.67

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと (p167)

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編体育編

保健体育科においても、各分野の特質を踏まえ、情報モラル等にも配慮した上で、必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるよう配慮することを示している。

例えば、科目体育においては、学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、科目保健においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切である。(p226)

- ・ICTを使うことで、活動そのものの低下を招かないだろうか？
- ・「とにかく使う」という段階から、ICTを活用した「深い学び」を実現するにはどのような活用の仕方があるのだろうか？





デジタル学習基盤の効果的な活用（事例：第5学年「走り高跳び」）



■単元の目標

- (1) 走り高跳びの行い方を理解するとともに、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 走り高跳びに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

https://www.mext.go.jp/sports/content/20230602-spt_sseisaku02-000022053_33.pdf

■単元の概要

走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて、リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳んで、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、単元前半は運動の行い方を理解し、自己の記録への挑戦をする時間、単元後半はルールを選んで競争や記録への挑戦をする時間を設定することで、自己の課題に応じた練習に取り組んで記録に挑戦したり、自己の能力に適したルールで競争を楽しんだりすることができるようにする。

■指導と評価の計画（8時間）

時間	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	学習の共通しをもつ	走り高跳びの行い方を理解し、自己の記録への挑戦をすることを楽しむ		競争のルールや課題の解決のための活動を工夫して、競争や記録への挑戦をすることを楽しむ			学習のまとめをする
学習活動	オリエンテーション 1 集合、挨拶、健康観察 2 単元の学習の共通しをもつ ○単元の目標と学習の計画を説明する。 ○運動の約束を説明する。 ○学習の約束を説明する。 3 本時のねらいを理解を促す。 4 場や用具の準備をする。 ○場や用具の準備と安全確認をする。 5 準備運動、主運動に動き出す。 ○準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する。 6 走り高跳びをする。 ○走り高跳びの行い方と計画の役割分担を理解する。 ○走り高跳びの計画をする。 7 本時を振り返り、次時への共通しをもつ	8 整理運動、場や用具の片付けをする	9 集合、健康観察	競争のルールや課題の解決のための活動を工夫して、競争や記録への挑戦をすることを楽しむ			6 単元を振り返り、学習のまとめをする 7 整理運動、場や用具の片付けをする 8 集合、健康観察、挨拶をする
評価の観点	知識・技能	① 観察・学習カード					② 観察
思考・判断・表現							
主体的に学習に取り組む態度	④ 観察・学習カード	④ 観察・学習カード	② 観察・学習カード	① 観察・学習カード	② 観察・学習カード	③ 観察・学習カード	① 観察・学習カード

デジタル学習基盤の効果的な活用
「端末を活用して、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶ」



小学校体育（運動領域）指導の手引（令和4年3月）スポーツ庁



学習指導要領との関連

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編
第2章 第2節の〔第5学年及び第6学年〕のC 陸上運動

(2) 思考力、判断力、表現力等

○ ICT 機器を活用して自己の課題を見付ける例

- ・ 自己や仲間の走りや跳び方の様子をタブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶこと。

教育部
Ministry of Education

小学校体育（運動領域）指導の手引（令和4年3月）スポーツ庁



学習指導要領との関連

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

第3章 指導計画の作成と内容の取扱い

Ⅰ 指導計画の作成

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、**体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。**



学習指導要領の 理念や趣旨の浸透が道半ば

子供の社会参画
の意識



知識と現実の事象
を関連付けて理解



将来の夢を持つ
子供の割合



深い理解を伴う
知識の習得



自律的に学ぶ
自信



「自分の考え」
を書くこと





保健領域で特に着目すべき「顕在化している課題」

知識と現実の事象
を関連付けて理解



- ・児童が既に生活経験を通して知っていることを取り扱うことが多いから、授業が盛り上がらない。
- ・例えば「心の健康」の学習では、「今は不安や悩みはない」という児童が少なからずいるので、なかなか現実の生活や行動と関連付かない。

深い理解を伴う
知識の習得



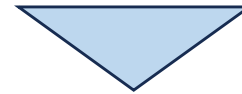
- ・教科書を読んで、大事なところを丁寧に確認しているから、知識はしっかりと理解できているはず。
- ・教科書の内容がたくさんあるので、どうしても時間が足りなくなってしまう。



知識と現実の事象
を関連付けて理解



深い理解を伴う
知識の習得



体育科改訂の要点

保健領域においては、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善すること。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 p.8

これらの資質・能力を育成するためには、（略）児童が身近な生活における健康・安全に関心を持ち、自ら考えたり、判断したりしながら、健康に関する課題を解決するなどの学習が重要である。このことにより、現在及び将来の生活において、健康に関する課題に対応して、保健の知識及び技能等を活用して、自己の健康を保持増進するために的確に思考し判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力を育成することを目指している。そのため、健康に関する課題を解決するなどの学習を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図ることが大切である。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 p.19、20



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について問い直す



指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。(小学校学習指導要領 p154)

どのように学ぶか

心から体への影響は意識できていなかったな。
確かに、心と体はつながっている！



学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」

例えば…

- ◆主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
 - ◆対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
 - ◆学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか
- といった視点で授業改善を進めることが求められる。

(解説p162)



「概念」としての知識の習得や深い意味理解



【概念】心と体は深く影響し合っている



「不安(心)」があると、「やる気(心)」が出ないよ！

「やる気」は心だね。
正解は「お腹が痛い(体)」だよ。



正解は「お腹が痛い」か。でも、「やる気」が出ないこともあるよね。

「概念」の習得には至っていない

どのように学ぶか

心から体への影響は意識できていなかったな。
確かに、心と体はつながっている！



「概念」の習得へ



「健康についての自己の課題を見付ける」学習の過程は位置付いているか？

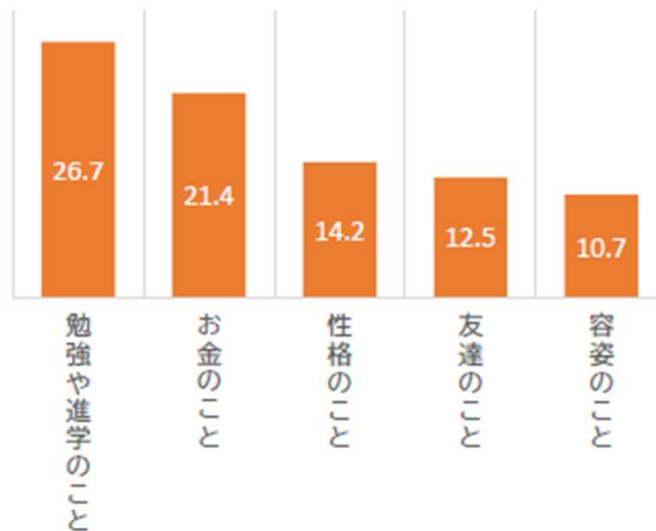


指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。(小学校学習指導要領 p154)

例えば…

自校の6年生に対する不安や悩みに関するアンケート結果(%)



一番身近な先輩である6年生は、こんな不安や悩みをもっているんだ。

もし、自分がこのような不安や悩みを抱えたらどうすればいいのかな？具体的に考えてみたいな。



指導計画の作成

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 p.161

児童が、課題を見付ける「学習過程」が存在しているか

そのために

教師は、「手立て」を講じているか